

平成11年腎移植報告

佐藤 滋、立木 裕、佐々木隆聖、三品睦輝、赤尾利弥、
土谷順彦、下田直威、佐藤一成、羽瀨友則、加藤哲郎
秋田大学医学部泌尿器科

Report of Renal Transplantation in 1999

Shigeru Satoh, Yutaka Tachiki, Ryusei Sasaki, Mutsuki Mishina, Toshiya Akao,
Norihiro Tsuchiya, Naotake Shimoda, Kazunari Sato, Tomonori Habuchi, Tetsuro Kato
Department of Urology, Akita University School of Medicine, Akita

1994年以来中断していた腎移植を、昨年（平成10年）2月から再開し1年間で8例経験した。患者を紹介していただいた病院名、患者の年齢、性、移植日、原疾患、ドナーと、99年末現在の血清クレアチニン（Cr）値を表1に示す。全例外来で経過観察中であり、腎移植機能は良好である。

表1. 秋田大における'98年の腎移植

紹介病院	年齢	性	移植日	原疾患	ドナー	Cr (mg/dl)
1 秋大3内	27	M	98/2/17	FGS	母 (51)	1.7
2 盛岡三愛	35	F	98/3/17	CGN	母 (63)	1.3
3 平鹿総合	19	M	98/5/19	FGS	母 (44)	1.7
4 市立秋田	38	M	98/6/30	CGN	兄 (41)	1.3
5 本荘第一	24	F	98/7/28	IgA	父 (54)	1.4
6 秋田日赤	41	F	98/10/6	CGN	妹 (35)	1.3
7 松田クリ	48	F	98/11/17	CGN	妹 (40)	0.8
8 秋田組合	35	M	98/12/8	CGN	母 (57)	1.5

1997年と1998年の東北各県の腎移植数を表2に示す。97年0例であった秋田県が8例に増加したのが、最も際立っている。98年の8例は東北圏内では宮城県について第2であった。ちなみに98年の全国の腎移植数は658件、うち生体腎移植509件（77.4%）、献腎移植149件（22.6%）であった。東北圏内の腎移植数は55件で全国の8.3%であり、55件のうち生体腎48件（87.3%）、献腎7件（12.7%）であった。全国に比して献腎移植の占める割合が少なく、秋田県ではまだ1例の経験もなかった。

1998年の各県の透析患者数に対する移植件数を、透析患者数1000人比でみると、2348人の透析患者数に対し38件の移植を施行した愛媛が患者1000人に対し16.2件と全国で最も高率であった

表 2. 東北各県の最近の腎移植件数

	1997年			1998年		
	生体	献腎	計	生体	献腎	計
秋田	0	0	0	8	0	8
青森	5	1	6	2	2	4
岩手	1	1	2	5	1	6
宮城	27	0	27	30	3	33
山形	0	0	0	1	0	1
福島	1	0	1	2	1	3
東北	34	2	36	48	7	55
全国	436	159	595	509	149	658

(腎移植臨床登録集計報告；1999年)

(表3)。ついで宮城であり、秋田は1000人に対し5.3件で全国第8であった。山梨と滋賀は0例であった^{1) 2)}。この統計にはトリックがあり、各県の移植数は必ずしも各県内在住の腎不全患者とは限らず、全国上位県には以前から腎移植を積極的に行っていた施設があり、他県からの患者も含まれている。

表 3. 透析患者数に対する移植件数
—'98年統計から—

	透析患者数	移植件数	透析患者千人対比
秋田	1,518	8	5.3 (8位)
愛媛	2,349	38	16.2 (1位)
宮城	3,009	33	11.0 (2位)
山梨	1,272	0	0 (46位)
滋賀	1,632	0	0 (46位)
全国	186,251	658	3.5

(腎移植臨床登録集計報告と日本透析学会調査から；1998年12月31日現在)

さて、1999年は10例の腎移植が行われた(表4)。このなかで特筆すべきは、8歳の小児腎移植と県内初の献腎移植である。小児例は先天性の低形成腎と膀胱尿管逆流のため、97年12月にCAPD導入となった。父親をドナーとし、腎静脈は患児の下大静脈、腎動脈は右総腸骨動脈に各々端側吻合した。血流再開直後、血液が急速にドナー腎に流入したため一過性の低血圧ショックとなったが、迅速な輸血により回復した。移植腎機能は安定しているが、移植によってサイトメガロウイルス(CMV)が伝播され、99年末現在臨床症状はないが血液中にCMVが認められ、まだ退院できない状態にある。また、本県待望の献腎移植が11月2日に行われた。その時間的経過を表5に示す。移植後2週間の無尿期を経て次第に尿量が増加し、透析から離脱した。拒絶反応も

なく移植後57日目の12月30日に退院した。

2000年も移植予定が10件あり、今後ABO不適合移植や、高齢者、夫婦間移植など困難が予想される症例も手がけていく予定である。

表4. 秋田大'99年腎移植

	紹介病院	年齢	性	移植日	原疾患	ドナー	Cr (mg/dl)
1	LD 9 横手公立	47	M	99/1/26	CGN	父 (71)	1.4
2	LD10 秋田組合	34	M	99/6/1	CGN	父 (70)	1.4
3	LD11 由利組合	30	F	99/6/15	IgA	母 (52)	1.4
4	LD12 秋大小児	8	M	99/7/13	VUR	父 (33)	0.8
5	LD13 仙北組合	49	F	99/9/7	CGN	弟 (48)	0.9
6	LD14 横手公立	24	M	99/9/21	VUR	父 (46)	2.8
7	LD15 秋田組合	50	M	99/10/19	CGN	姉 (64)	1.5
8	CD 1 県南在住	26	M	99/11/2	IgA	献腎	1.5
9	LD16 秋田日赤	24	F	99/11/16	SLE	母 (50)	1.2
10	LD17 平鹿総合	40	M	99/12/14	CGN	母 (64)	1.9

表5. 献腎移植例

ドナー	28歳、交通事故、ドナーカード保有者
	11月2日 15:45 両側腎摘出
レシピエント	26歳、'99年2月 移植希望登録
	11月2日 0:00 第4候補通達、意思確認
	8:00 レシピエント決定、最終意思確認
	10:00 入院
	15:00~18:00 透析
	18:30 手術室入室
	19:20 執刀開始
	20:30 右腎到着
3日	1:30 手術終了

参 考 文 献

- 1) 日本透析医学会統計調査委員会：わが国の慢性透析療法の現状（1998年12月現在）、透析会誌33：1-27、1999
- 2) 日本腎移植臨床研究会 日本移植学会：腎移植臨床登録集計報告（1998）、移植34：51-54、1999